

大船渡市三陸地区民生児童委員協議会

(平成 26 年 11 月)

1 はじめに

大船渡市は、岩手県沿岸南部に位置しています。当市にある県内最大の港「大船渡港」は、サンマなど全国有数の水揚げを誇る漁港であると共に、国際コンテナ航路を有する物流拠点の港でしたが、東日本大震災の津波により壊滅的な打撃を受けました。また、震災の死者・行方不明者は 494 名に上りました。

三陸町は、大船渡市中心部から北東に位置し、民生委員・児童委員 29 名が、綾里、越喜来、吉浜の 3 地区で活動しています。(綾里地区 11 名、越喜来地区 11 名、吉浜地区 5 名、主任児童委員 2 名)

3 地区とも太平洋に面し、定置漁業や、ワカメ、ホヤ、ホタテ等の養殖業で活気ある地域でしたが、今回の津波により甚大な被害を受けました。

三陸町では、家屋全壊 535 件、大規模半壊 33 件、半壊 40 件、犠牲者 93 名、行方不明者 27 名に上り、特別養護老人ホームの入所者も犠牲となりました。

被災直後の混乱の中で、避難所となった地区公民館では、民生委員・児童委員が公民館役員や各団体の女性部、被災していない地域の住民等と協力して、避難した住民を励まし、炊き出しや支援物資の配分等を行ないました。また、電気、水道等のライフラインが復旧するまでは、独居高齢者、障がい者をはじめ、地域の全世帯の声を聞きながら見回りを行ないました。

避難所では、被災した子どもたちを元気づけようと、新 1 年生のお祝いや誕生会を開催し、支援物資を活用してプレゼントを作り、皆で楽しんだこともありました。

2 現在の様子

現在は、仮設住宅を担当する支援員や社会福祉協議会の生活支援相談員と連携し、見守り等の活動をしています。

被災した方がたのなかには、自宅を新築し、移転する世帯も多くなりました。漁業関係者も、定置網やウニ、アワビの水揚げ、ホタテ、ワカメの養殖が少しずつ軌道に乗り、浜の復興の声も聞こえるようになりました。

被災した特別養護老人ホームも新築落成し、平成 26 年 6 月から運営が再開され、入所者も安堵しています。

子どもたちも元気に通学し、何事にも一生懸命取り組んでいる様子が学校通信で見られ、地域の方々も元気づけられています。

道路は、海岸の工事やかさ上げ工事の車両が往来し、賑やかになりました。また、少しずつ、漁業者の元気な様子や活気づいた声も聞こえるようになりました。

今後は、高台移転や災害公営住宅の建設が予定されており、入居希望者は早期の完成を待っています。

3 おわりに

災害発生時においては、民生委員・児童委員 1 人では要援護者の安否確認を行なうことは容易ではありません。今回は、地区公民館役員や地域住民等の連携があっただけでなんとか乗り越えることができましたが、普段から関係者と協力体制を築いておくことの大切さをあらためて感じています。

最後に、全国の民生委員・児童委員の皆様からご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。



浸水区域のかさ上げ。手前のポプラの木は、上まで津波の被害を受けても元気に立っているので「ど根性ポプラ」と呼ばれています。



山側では被災小学校等の移転工事が行なわれています。



防潮堤・海岸道路などの工事のため、ダンプ等の工事車両が往来しています。